主日の福音 2024/12/24(No.1330)

主の降誕（夜半）(ルカ 2:1-14)

布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子

主の降誕おめでとうございます。私たちは待降節の準備を終えて、今や喜びの時を迎えました。心から待ち望んだ人、何かの工夫をして待降節を過ごした人には喜びはひとしおでしょう。何も準備をせず、ただ日々を過ごすだけで迎えた人には分からない喜びがあると思います。

今年のクリスマスに、主の天使の次の言葉を取り上げたいと思います。「あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」（2・12）示された幼子は、人の目にどのように映るでしょうか。

人口登録に来た人がもしこの家畜小屋の光景を見たなら、泊まる場所がなくて飼い葉桶に幼子を寝かせている親子は、どのように映ったでしょうか。社会から見捨てられ、隠れるようにして暮らす親子と映ったかも知れません。

のちにやって来る羊飼いたちは、主の天使から出来事の説明を受けていたので、幼子は「大きな喜び」「救い主の誕生」と映りますが、解き明かしがなければ、「自分たちと変わらない、野宿をしながら生活している親子」としか映らなかったでしょう。

朗読箇所が教えてくれるのは、神の側からの解き明かしがなければ、この幼子を救い主と認めることはできないということです。ですからまず私たちは、飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子の前に、静かに留まる必要があります。人間のどんな知恵も知識も、この幼子が救い主、主メシアであることを見抜くことができないからです。

私たちが、人間の知恵に頼らず幼子イエスの前に自分を置くなら、神はこの幼子がどなたであるかを解き明かしてくださいます。今からでも遅くないので、幼子のために私の心に広い場所を用意しましょう。そうすれば、神の方から照らし導いてくださいます。

私たちの心に、幼子イエスを迎えるなら、イエスが人として成長し、神と人とに愛されていったように、私たちも人として成長し、神と人とに愛される歩みを共にできるはずです。私たちが受け取ったのは「神秘」でもあります。神秘は、人間には解き明かしのできないものです。ところが神は「神秘」そのものですから、人間に解き明かしをすることもおできになります。

今年もたくさんの出来事がありました。他人には与えられたのに、自分にはそれが与えられなかったとか、なぜこのことが他人にではなく自分に起こったのか。そういうこともあったでしょう。誰も説明出来ないことを説明してくださるのは神です。私たちが幼子イエスを迎え入れ、イエスと共に歩むなら、解き明かすことのできなかった出来事の意味を、説明してくださるでしょう。

今年、中田神父には「布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子」が、「これから一年間、わたしと一緒に希望の巡礼者となってほしい」と語りかけているように映りました。

主の降誕(日中)(ヨハネ 1:1-18)